

令和3年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立草加西高等学校)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

目指す学校像	人に優しく、自分に厳しく、社会に貢献できる人間を育てる学校 ～自らの力で夢を実現できる力を養う～
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 主体的に学ぶ意欲と探究心を育む授業の充実 社会に通ずる規範意識の育成と、学校行事や生徒会活動・部活動の充実 個々の希望を叶え、生徒の人生を豊かにするきめ細かなキャリア教育の実現 地域連携の強化と積極的な情報発信による開かれた学校づくりの推進

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学年	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	年度評価(月日現在)		学校関係者評価
					評価項目の達成状況	達成度	
実施日	令和	年	月	日	学校関係者からの意見、要望、評価等		
1	【現状】 ・家庭学習の習慣が定着していない。 ・ICTを活用した授業が十分に実践できていない。 ・図書館利用が増えている。 ・3年間を見通した検定試験の計画を立てられていない。 ・保護者の授業に対する関心が高まっている。 【課題】 ・ICTの環境整備が十分でない。 ・ワンランクアップを目指した学力を定着させるために、家庭学習の時間を増やし、自学を定着させること。 ・ICTを活用した授業について教員のスキルアップが必要。 ・主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業内容を共有し、教員相互間で学び合いを行う。 ・生徒の学ぶ意欲と探究心を刺激し、主体的に学習に取り組む姿勢を育成すること。 ・図書館利用を引き続き増やし、読書を習慣化すること。 ・3年間を見通して、計画的に資格取得ができるよう、学校全体で情報を共有して組織的に取り組むこと	自らの探究心を育て、自己の成長のために目標を掲げ、意欲的に自学できる生徒を育成する	①eポートフォリオ等を活用し、計画的に家庭学習に取り組めるように支援するとともに教科を超えた横断的な連携を強化し、家庭学習の時間を増加する。(通年) ②ICTを活用した授業を年1回以上校内公開し、教職員の学び合いを進めるとともに、スキルアップのための研修会を年2回以上行う。 ③主体的・対話的で深い学びを取り入れるとともに生徒の探究心を育てる。(通年) ④図書館利用を積極的に授業に取り入れ、利用を推進しながら生徒の読書習慣を支援する。(通年) ⑤資格試験の情報をまとめ、生徒に周知するとともに3年間を見通した計画を生徒に考えさせる(通年) ⑥検定試験の学習の支援を組織的に取り、合格に向けた補習等を充実し、資格取得を推進する。(通年)	①定期考査前の家庭学習の時間が増加するように職員で指導する。 ②eポートフォリオ、キャリアパスポートを活用し家庭学習の定着を図り、学校教育アンケートで検証する。(昨年度比) ③ICTを活用した授業を校内公開し、教員間の学び合いを強化する。 ④ICTを活用した授業実施に向けた教員研修会を実施する。 ⑤各教科で連携を図り、図書館を活用する授業を行う。 ⑥資格取得を計画的に進めるため、西高ブレイクスルーに検定試験の情報を掲載し、3年間見通した資格試験の取得に向けて生徒を支援する。 ⑦資格試験の受験者数及び合格者数を増加させる。特に、2級合格者を増やす。(昨年度比)			
	【現状】 ・きめ細かな生活指導は実践できている。 ・規範意識を持って意欲的に学校生活を送る生徒が増えてきている。 ・人間関係の悩みを抱えている生徒が複数おり、心の支援を必要としている生徒がいる。 ・近隣住民から自転車マナーに対する意見が多く、登下校中の接触事故がある。 ・生徒会が中心となって学校行事を運営出来ている。 【課題】 ・教員と生徒との信頼関係を強化し、一人一人が規律ある態度を実践し、将来に向けた自主自立と必要な規範意識を自ら一層向上させること。 ・引き続き、全職員の共通理解を得ながら、生徒の安心、安全を確保し、充実した学校生活ができるようにすること。 ・自己肯定感がある生徒を育てるため、活躍できる場を多く設定すること。 ・部活動の予算編成を適正に行い、活性化につなげること。 ・生徒が様々なところで自らの意思を判断し、行動できるようにすること。 ・心の支援を必要としている生徒に対して組織的に行うために連携体制を強化すること。 ・登下校時の安全を確保すること。 ・SNSの望ましい扱い方について十分理解できていない。	自らの意志で行動	①教職員間、保護者との連携を密にし、遅刻指導や身だしなみ指導等を実践することで基本的な生活習慣が生徒自らの力で身に付くように指導する。(通年) ②スクールカウンセラーによる教育相談を実施する。(年12回) ③校内教育相談体制を充実し、草加分校と連携した体制を実施する。(通年) ④二者面談の実施。(年2回以上) ⑤生徒の規範意識を醸成し、交通ルールやマナーを守り交通事故ゼロを目指す。(通年) ⑥SNSの望ましい扱い方について学び、生徒がトラブルに巻き込まれないようにする。(通年)	①欠席数、遅刻数の減少を目指す。(昨年度比) ②始動者の増加を目指す。(昨年度比) ③生徒が充実した学校生活を送れるようにスクールカウンセラーと連携を深めながら支援する。 ④個に応じて、東部教育事務所と連携する。 ⑤草加分校と協力した教育相談対応やケース会議等を実施し、情報共有の機会を設定する。 ⑥生徒との二者面談を4月、9月に実施する。 ⑦交通ルールを守り、登下校時の交通事故を無くす。(昨年度比) ⑧SNSについて講演会等を通じて学び、望ましい扱い方を身に付ける。必要に応じて生徒会主体で呼びかけを行う。			
2	【現状】 ・教員と生徒との信頼関係を強化し、一人一人が規律ある態度を実践し、将来に向けた自主自立と必要な規範意識を自ら一層向上させること。 ・引き続き、全職員の共通理解を得ながら、生徒の安心、安全を確保し、充実した学校生活ができるようにすること。 ・自己肯定感がある生徒を育てるため、活躍できる場を多く設定すること。 ・部活動の予算編成を適正に行い、活性化につなげること。 ・生徒が様々なところで自らの意思を判断し、行動できるようにすること。 ・心の支援を必要としている生徒に対して組織的に行うために連携体制を強化すること。 ・登下校時の安全を確保すること。 ・SNSの望ましい扱い方について十分理解できていない。	主体性のある生徒会活動	①生徒が主体となって学校行事を運営し、生徒会活動の核となる生徒会本部の活動を充実する。(通年) ②生徒が自己肯定感を抱くように、教職員の見守りの体制を強化する。(通年)	①生徒会の本部役員が各学校行事等の企画・運営を今まで以上に生徒中心に行う。 ②教職員が生徒の活動について、共通理解を持って支援する。 ③部活動加入率(90%程度)を維持する。 ④部活動実績の向上。 ⑤草加西高校部活動サポート事業を進める。			
	【現状】 ・教科や各専攻との連携により、生徒の進路実現の達成率は90%を超えている。 ・大学等への進学者が増加傾向にあり、大学進学への指導について保護者からの要望がある。 ・公務員試験に一次合格する生徒が増えてきている。 ・保護者に必要な情報は発信できている。 【課題】 ・ワンランクアップの進路を目指してチャレンジする意欲を向上させること。 ・進路指導の方向性について共通理解を取り組むこと。 ・生徒が大学受験に臨むために必要な組織的な支援体制について検討すること。 ・ルーブリックを使用した観点別評価について研究を推進、実践すること。 ・生徒への多様な進路希望への対応を今度以上に組織的に行うこと。 ・公務員を目指す生徒への支援を早期から計画的、組織的に進め、二次試験合格者を増やすこと。 ・保護者へ進路に関する情報発信を行うこと。	希望する進路に向けて意識を高め、ワンランクアップの進路実現を目指して早めに準備し、チャレンジする意欲を持つ生徒を育成する。	①3年間を見通した進路指導計画について確認し、指導の方向性について全職員が共通理解を持つ。(通年) ②ワンランクアップの進路実現に向けて、早い段階からチャレンジする意欲を持たせる。(通年) ③大学受験の支援を行うための組織について、草西ビジョン検討チームを中心に検討する。(通年) ④進路希望者向けの補習や補講を実施する(通年) ⑤教員向けの進路指導研修(進学)を実施する。(年2回) ⑥長期休業中や放課後を活用して、公務員希望者対象の講座、就職者対象の補習等を計画的に実施する。(通年) ⑦学校ホームページを活用して進路に関する情報を的確に提供し、質の高い進路指導を継続する。(通年)	①進路指導主事による進路講話や進路指導研修等を実施する。 ②生徒が希望する進路の決定(100%)を目指し、職員が一丸となって生徒自らの力で活動につなげる支援をする。 ③実施している補習や補講を見える化し、組織的な支援体制について検討する。 ④大学等が実施する進路説明会へ教員を派遣し、常に新しい情報を把握、共有して生徒面談等で還元する。 ⑤公務員希望者対象の講座を計画的に実施し、早期の段階からチャレンジするよう支援する。(通年) ⑥ホームページ等で進路行事や進路情報を定期的に更新し、保護者へ提供をする。 ⑦各学年から進路だよりを年6回以上発行する。			
3	【現状】 ・積極的な情報発信と施設開放、地域ボランティア等を行っている。 ・近隣中学校と良好な関係を築いている。 ・近隣中学校との連携を少しずつ進めている。 ・学校行事や授業公開への保護者の参加数は年々増加している。 ・草加ががやき特別支援学校草加分校との交流は良好である。 【課題】 ・地域の小・中学校との交流を継続して実施するとともに定着化させること。 ・PTA活動への保護者理解と参加者を拡大すること。 ・地域住民の方々が来校する機会が限られている。 ・獨協大学との取組を検証し、進展させること。 ・分校との相互理解を推進するため学校行事を中心とした交流を行うこと。 ・職員の交流(合同研修会)に取り組むこと。	様々な人との交流	①生徒自身が地域で活躍することを通して、地域住民や小・中学校等に本校の良さや発信し、地域に根差した信頼される高校として魅力を発信し、学校説明会に参加する人数を増やす。(通年) ①ホームページを効果的に活用し、生徒の活動を積極的に掲載する。(通年) ②獨協大学との取組を年1回行い、検証する。 ②PTA・後援会理事会を中心として、保護者間の連絡や連携を強化するとともに、各種行事等に職員と一緒に参加する。 ③草加分校と連携し、日々の連絡を共有する体制を構築する。また、各種行事を生徒だけでなく保護者、職員が一丸で行い一体感を味わう。(通年) ④草加分校の職員と合同研修会を行い、職員間の交流を推進する。(通年)	①学校説明会への参加者650名以上を目指す。(昨年度比690名) ②ホームページのトップページを積極的に更新する。(昨年度比) ③ホームページの部活動のページを全職員で積極的に更新する(通年) ④獨協大学との取組を年1回行い、交流を深める。 ⑤地域ボランティア活動への参加部活と生徒数を増加させる。 ⑥保護者の授業公開やPTA活動、各種行事等への参加数を増加させ、学校への関心を高める。 ⑦合同での行事を実施する。 ⑧日常での相互交流を図る。 ⑨合同研修会(年1回以上)を実施し、職員間の交流を図る。(通年)			
	【現状】 ・積極的な情報発信と施設開放、地域ボランティア等を行っている。 ・近隣中学校と良好な関係を築いている。 ・近隣中学校との連携を少しずつ進めている。 ・学校行事や授業公開への保護者の参加数は年々増加している。 ・草加ががやき特別支援学校草加分校との交流は良好である。 【課題】 ・地域の小・中学校との交流を継続して実施するとともに定着化させること。 ・PTA活動への保護者理解と参加者を拡大すること。 ・地域住民の方々が来校する機会が限られている。 ・獨協大学との取組を検証し、進展させること。 ・分校との相互理解を推進するため学校行事を中心とした交流を行うこと。 ・職員の交流(合同研修会)に取り組むこと。	様々な人との交流	①生徒自身が地域で活躍することを通して、地域住民や小・中学校等に本校の良さや発信し、地域に根差した信頼される高校として魅力を発信し、学校説明会に参加する人数を増やす。(通年) ①ホームページを効果的に活用し、生徒の活動を積極的に掲載する。(通年) ②獨協大学との取組を年1回行い、検証する。 ②PTA・後援会理事会を中心として、保護者間の連絡や連携を強化するとともに、各種行事等に職員と一緒に参加する。 ③草加分校と連携し、日々の連絡を共有する体制を構築する。また、各種行事を生徒だけでなく保護者、職員が一丸で行い一体感を味わう。(通年) ④草加分校の職員と合同研修会を行い、職員間の交流を推進する。(通年)	①学校説明会への参加者650名以上を目指す。(昨年度比690名) ②ホームページのトップページを積極的に更新する。(昨年度比) ③ホームページの部活動のページを全職員で積極的に更新する(通年) ④獨協大学との取組を年1回行い、交流を深める。 ⑤地域ボランティア活動への参加部活と生徒数を増加させる。 ⑥保護者の授業公開やPTA活動、各種行事等への参加数を増加させ、学校への関心を高める。 ⑦合同での行事を実施する。 ⑧日常での相互交流を図る。 ⑨合同研修会(年1回以上)を実施し、職員間の交流を図る。(通年)			